



# あそか

2009.12.1

Vol. 13-2

社会福祉法人 すいよう会・指定介護老人福祉施設 アソカ園・ケアハウス 白寿  
グループホーム 陽だまり・和が家・えびすや・事業所内託児所 ひまわり

〒792-0885  
新居浜市清住町1番36号  
TEL (0897) 46-5353  
FAX (0897) 46-5351

## 祝 長寿 おめでとうございます



近藤スエ子様  
(99歳)



白石 照子様  
(102歳)



佐伯 ナミ様  
(100歳)



永易フジコ様  
(101歳)



### 「白寿おめでとう」

近藤 スエ子様の御家族(長男様)

近藤 正行

九月の「敬老の日」をこの様に健康で元気に迎えられたことを家族のみんな嬉しく思っています。

母は、大島に嫁いできて八十一年、子沢山の上に舅、姑、小姑と大家族のなかで私たちを育て、色々苦労も多かった様ですが、明治、大正、昭和、平成の四代を生き抜いてきた母はすばらしいと思います。そんな母が、八年前歩けなくなり、病院へ入院していたのですが、去年の三月アソカに入園できました。

アソカの職員の方々の皆様のおかげで暗かった母がだんだん明るくなり、今では自分で便器に座ったり、歩行の練習をしたり……そんな頑張る母の姿を見てると、年若い母に教えられることが沢山あります。自分でやる気はもちろんです、手助けをして下さっているアソカの方々のご指導の賜物と感謝しております。

アソカという家族の一人として安心して生活している母を見ると嬉しいような嬉しいようなそんな複雑な気持ちの私たちです。

「安心して生活できる場所がある」ということは、私たち家族にとっても嬉しいことです。この様な素晴らしい環境の中で生活できる母はとても幸せだと思います。本当にありがとうございます。

親に孝行のしすぎはない!!と言われませんが、これからも少しでも多く母と接し、話しかけ、そこそこでいいから一日でも長く生きて欲しいと願っています。



# 特養



赤組優勝!!



31・32...  
たくさん  
あるなあ♪

## 秋季 大運動会

10月9日にアソカ園運動会が行われました。玉入れの他、パン食い競争……等、数々の種目があり、一致団結して頑張りました。



これ以上  
口が開かんわい



お母さん  
頑張ってるね!!



みんな  
頑張ってるわね  
お姉さんも  
頑張ってるね!!



# 特養

# 秋祭り



2台の子ども太鼓台が来園しました。



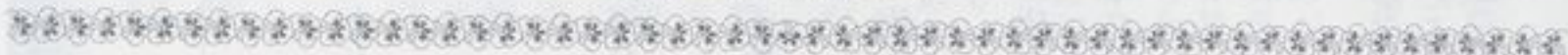
かきくらべを行いました。



入所者代表  
お礼のあいさつ



子ども太鼓台  
のみなさん



# デイサービス アソカ

# 運動会

三輪車  
何十年ぶりかな～  
足大丈夫かなあ？



ね～え  
見てみて!!  
ど～よ!!

白勝て!!



赤勝て!!



どちらが勝っても  
負けても  
お疲れ様でした～



白組  
頑張れ～



太鼓まつりの次は紅葉見物に  
出かけます。お楽しみに!!





ご利用者の皆さんと職員も一緒に“うどん作り”  
をしました♪  
うどんは生地から作り、手間暇かけて大変で  
したが、その分とても美味しくいただきました。



うどんの“こし”が  
出るように  
一生懸命踏みました。



- ・あの人の  
笑顔で分かる心かな
- ・秋晴れや  
ひ孫も踊る運動会
- ・天職と  
思へばこそその笑顔かな
- ・足なえし  
身ぶり手ぶりの運動会
- ・ボケたとは  
言われたくない秋の空
- ・抱かれても  
せきがとまらぬ秋の風邪
- ・暇あれば訪ねて来て見よ  
この職場  
何も無けれど  
笑顔あるのみ
- ・笑顔から笑顔がうつる  
アソカ園  
一心不乱の  
介護魂
- ・眠れない秋の夜長に  
夢で弾く  
絶歌の教よ  
ヴァイオリンかな
- ・この人の昔の面影  
いまいすこ  
哀れに思う  
人の世の果て
- ・ひまあれば訪ね来てみよ  
離れ鳥  
波風立てず  
笑い声だけ
- ・ふる里の山の思い出  
数あれど  
忘れられない  
乗ひろいかな
- ・一日中わけがわからぬ  
話でも  
静かに聞いて  
うなづくだけよ
- ・秋晴れに老いを忘れて  
有頂天  
今日はアソカの運動会



亀井安家  
(俳号)

合掌

いつもやさしく皆に気づかいをして下さり、短  
歌が趣味でこの「園だより」に載ることをとても  
楽しみにしてくださっていた亀井さんですが、  
十一月半ばご逝去されました。ご冥福をお祈り  
いたします。



# 島の家えびすや



敬老会に出席しました。  
芸能人!?も登場!!  
ラッタッタッ♪



3人合わせて25?才  
まだまだ元気な"80代"



のどかで良いわねえ~。  
お出かけボード「外出中」を  
作りました。  
泥棒さんは、大丈夫なの??



100円均一のお店  
色んな物があるわねえ~



見せよか?

あなた、  
何買ったん?  
ええの  
あったで?



# ケアハウス 白寿



みんなで  
ティータイム  
素敵な時間を過ご  
しました♪

森の泉 喫茶  
白寿入居者(村方様)主催の  
ちぎり絵作品展



いもたき会

あったかいお鍋を  
皆で囲んで幸せ♡  
お腹いっぱい!!



日帰りツアー  
奥道後 菊花展

道後散策。お食事を  
楽しむことができました。





# グループホーム 陽だまり

夏の  
ある日。

陽だまり農園で  
育ったスイカが  
えらい白いね！

わたしゃ  
アイスが  
好きじゃあ♡

皆で  
てんてん丸  
へ……。

8月5日  
近藤恵子さん  
お誕生日会

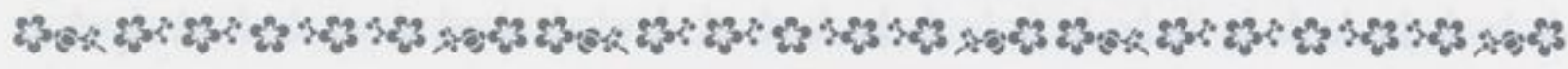
お寿司が  
回ってる～

涼しい風に  
オカリナのきれいな  
メロディが流れて  
皆笑顔です。

こりゃかんぴょう  
じゃあ!! スイカじゃない  
わね～。あはははっ♡

おいしいねえ

9月13日  
陽だまり前庭で  
夕刻いも炊き会 開催  
ご家族一緒に食欲も  
いつもより増して  
おられました。



ええのが  
出来たねえ。

テラスでの  
洗濯干し

今日は天気  
いいから  
よく乾いてええよ。

そうめん  
流しの竹を磨いて  
います。

元気もりもり体操  
かわいい子どもたちと  
楽しく一緒に体操です。

# 認知症専用デイサービス 和が家



事業所内託児所

ひまわり

おねがいごと  
かなうかな。  
おり姫さまみたいに  
かわい〜いでしょ



七夕さま



この笑顔  
最高!!



水あそび  
だ〜いすき♡



ヨーイドン!!  
ボクはカッコいい  
アンパンマン。  
頑張るぞ!!



「アソカ園」の  
大運動会

「和が家」の皆さんと、  
“ピーッピッ、ドンデンドン”



ひまわり太鼓台で  
盛り上がりました。

## 介護保険 Q & A



### Q ふれあい収集って何？



**A** ごみステーションへの家庭ごみの持ち出しが困難な方を対象に、週1回個別収集を行う新居浜市のサービスです。高齢者の方や障害のある方の日常生活の負担を軽減し、在宅生活を支援することを目的としています。

- 対象** (1) おおむね65歳以上で介護保険の要介護認定を受けている単身の世帯及び同居者がある世帯で当該同居者がごみ排出の困難な高齢者、虚弱者、年少者などである世帯  
 (2) その他、身障・療育・精神障害者保健福祉手帳の交付(別途条件あり)等、基準に該当する者

**申込方法** 「新居浜市ふれあい収集利用申請書」「確認書類」が必要です。申請書は市役所2階ごみ減量課にあります。また、ケアマネージャー・ヘルパーからの代理申請もできます。



居宅介護支援事業所 アソカ園  
TEL 46-5251



# ヘルパーステーション アンカ

## 合田清美さん とのかかわり



前日も「眠って

いたら会えないの  
で、起きて待つて  
いたのよ」と笑い  
ながら居室にて迎  
えてくださいまし

た。私は夕食の支度の為にお伺いするの  
ですが、その前に少しの時間をとって他  
愛のないおしゃべりをする事により、毎  
日を元気で過ごしていただけるようにお  
世話させていただいております。

体調をお聞きした後、メモ帳とペンを  
手にして脳トレが始まります。始まりの  
きっかけといえば、以前から俳句をたし  
なまれていた清美さんが「俳句の応募を  
してみようかしら」と言われたのが発端  
でした。それで、以前の作品より新しい  
俳句を作るよう勧めて、次のお伺い時迄  
に2句作ることを約束し、  
その都度メモに書き記し  
ます。頑張れコールのも  
とに作られた清美さんの

俳句は語彙も美しくて情  
景の浮かぶ素晴らしいも  
のでした。

これはデイサービスの  
迎いの車の中から見て心  
に浮かんだものだそうです。

秋深やすすきの原の銀の波(清美作)

ある時、清美さんが「先生になってみて  
あげるのよ、来週までに3句作ってくる  
ように」「難しいので出来ない」と言う  
川柳ならばと書いて作られた作です。

夕食はヘルパーまかせ味もよし(清美作)  
成るほど、これなら私もと言いつつ

ヘルパーは下ごしらえよ味は嫁  
清美さん「えっ、そうなの?」もう二句

良い嫁は義母の心を味付けす

どんどんと俳句ではなく川柳会話がはず  
み、楽しいひとときです。清美さんも俳  
句のことで心が一杯になり、作品展にま  
でと発展します。とても積極的に表情も  
真剣です。93才という年齢を感じさせな  
い、生き生きとした心の動きにとても励  
まされ、これが若  
さの秘訣なのだ  
実感させられてい  
ます。



あやちゃん

## 作ってガツテン

栄養士

竹内 綾子

だいこん……すっきりと重みがあり、張  
りとつやがあるものが新鮮。消化酵素の  
働きで胃腸の調子を整える

胃もたれなど、胃がすっきりしない時には  
大根おろしがいいと言われます。これは、  
大根に含まれる消化酵素のジアスターゼ  
などが消化を助けてくれるため。肉や魚  
に大根おろしを添えるのは、味のバランス  
だけでなく、消化を助けてくれたのだ  
です。この消化酵素は、細かくするほど  
効果を発揮するので、おろしが効果的!!  
根の部分の95%は水分ですが、ビタミン  
Cを含み、葉にはカロテンとカルシウム  
が豊富。茹でて刻んで調味し、菜飯や常  
備菜に利用しましょう。

★保存法  
大根は葉をつけたままにすると、葉の部  
分から水分が抜けてしまう。保存する時  
は葉を落として新聞紙で包み、冷蔵庫に  
立てて保存。葉は捨てるに刻んでみそ汁  
の具や炒め物に利用すると良いです。

★料理によって使い分ける!!



- ① 甘みはあるが、固いので、大根おろしやサラダに。
- ② 甘くてやわらかいので、おでんやふろふき大根に。
- ③ 少し苦みがあるので、濃いめの味付けに。
- ④ 辛みが強いためおろして魚の付け合わせに。

## 根菜たっぷり粕汁

### 材料(4人分)

|           |      |            |       |
|-----------|------|------------|-------|
| 大根        | 10cm | こんにゃく(細切り) | 1/3枚  |
| 人参        | 1/3本 | サラダ油       | 大1弱   |
| 里芋        | 3個   | だし汁        | 4カップ  |
| しいたけ(細切り) | 2枚   | A味噌        | ) 各大2 |
| れんこん(半切り) | 1節弱  | 酒粕         |       |
| 豚薄切り肉     | 80g  | 三つ葉又は葉ねぎ   | 適量    |

### 作り方

- ① 里芋は乱切りにして塩をふり、水でぬめりを取り、下ゆでする。大根と人参はイチヨウ切りにする。
- ② 鍋にサラダ油を熱し、一口大に切った豚肉を炒め、①としいたけ、れんこん、こんにゃくを加え、だし汁を加えて10分程煮る。
- ③ 野菜に火が通ったら、Aを加えて調味し、器に盛って三つ葉又は葉ねぎを散らす。





# 教職員初任者研修所感

「福祉活動の意義と必要性を学び、現場教育に生かす」ことを目的に、今年も東予地区の小中学校新任教員70名の皆さまが2日間(8月27、28日)に分かれアソカ園で実習を行いました。

当日の実習では、食事介助や車椅子介助の体験実習、法人の理念や人材育成の取り組みについての講話を通じ、福祉について理解を深めていただけたと思います。

フレッシュな先生方の前向きな実習姿勢には我々スタッフも学ぶべき点が多く、また、初心を思い出すことが出来た有意義な一日となりました。



## 西条市立壬生川小学校 池川 真見

施設見学では、職員の方や利用者の方の表情がとても穏やかで笑顔と思いやりのあふれる現場の様子をたくさん見せていただきました。食事介助や車椅子体験では、「食べやすいスプーン」の角度、一回の量やタイミング、「アスファルト上

での体感温度の高さ」「坂道での後ろが見えない不安」「状況を細やかに言葉掛けしてくれる安心感」など、実際に体験することによって気づく相手の気持ちを感じました。施設見学や実習を通して、

二人ひとりの子どもの立場に立つ」ということの大切さを改めて考えさせられました。そして、自分自身を振り返り、私はありのままのその子を受け止め、大切にし、その子のいいところをしっかりと見ることが十分にできているだろうか、と深く考えさせられました。

また、「各事業所の取組」では、訪問入浴、ケアハウス、デイサービス、在宅介護支援センター、訪問介護、特別養護老人ホームなどの福祉サービスについて講義をしていただきました。どの事業所の方も、「どういうサービスを提供することが、その方にとっての幸せの実現になるのか」という視点をとても大切にされています。また、「利用者の方がかいて、介護させてもらってこそ成り立つ仕事なのです。」とおっしゃられていたのがとても心に残



りました。教師も子どもたちがいてくれてこそ成り立つ仕事であり、何より大切な命にかかわらせてもらっていることに感謝し、日々の勤務に精一杯取り組みたいです。「法人の理念や取組についての講話では、「理想は高く、目標は小刻みに」「教育とは人間力である」「専門性を高める」などに響くたくさんの言葉をいただきました。まだまだ未熟で思うようにできないことも多々ある私ですが、「理想は高く、目標は小刻みに」でいききたいと思えます。そして、子どもたちがこのクラスに、この学校に来れてよかったな」と心から思えるようなかわりを目指していききたいと思えます。

## 新居浜市立宮西小学校

### 菊地 愛香

様々な研修を通して、「相手の立場に立つ」ということを考えさせられた。食事介助や車椅子体験では、「相手の立場になる」ということを本当に知るには、自分自身が体験してみないと分からない。スプーンの差し出し方、声かけひとつで食べやすく、おいしく、楽しい食事ができる。自分だったらどのような方法が食べやすいのか考え、相手のことについて心や体の状態、さらには食べるという仕組みについて知ってこそ、おいしい食事を提供できるのだと感じた。



一学期を振り返り、児童の立場に立つことができていなかったことを反省した。私がかも児童の立場だったらと考え、児童の心や体の状態を読み取り、学校、家庭での出来事や育ってきた環境までも含めて対応していきたいと思った。ヘルパーさんは「100人いたら100通りの支援の仕方がある。」と言われた。教育も同様で、一人ひとり支援の仕方は違う。児童理解に努め、その子に合った支援をしていきたい。

また、「子どもは言うた通りには育たない、した通りに育つ。」という森川施設長の言葉にも心打たれた。言葉で示すのではなく、多くの活動を児童と共に、一緒に活動する中でまずは自分が示していかなければならないと思った。今、やりたいと思うことはたくさんあるが、どれも中途半端である。しかし、児童と共に成長できる素晴らしい職業に就いていることを誇りに思い、児童とともに学び続ける教師でありたい。心と体を元気にさせる遺伝子をはたかせる「ありがたい」の感謝の言葉で、心と体の元気なクラスづくりを務めたい。



## 第2回 看取り勉強会

施設長  
森川 隆

「人生の最後をどう迎えるかとは、最後までどう生きたいかである」

戦前は家で亡くなる方が八割、戦後は病院で亡くなる方が八割という報告がある。死を身近なものとして感じられなくなった戦後、日本人は、死を忌むべきものとして捉え、死と向き合うことを避けてきたのではないかと感じる。医療においても生命を助けることに重点が置かれ、生命を送るという意識が希薄ではなかったかと思う。

聖路加病院理事長であり九十七歳にして現役医師である日野原先生は、死についてその著書でこう述べている。「死は特別なことではない。忌むべきものではない。もつと普通なものである。人は生まれ死ぬ、死はごく自然な姿である」。

私たちは、自分自身の人生をもつと自分に取り戻す必要があると思う。死を迎えるとは、死ぬその瞬間までどう生きるかの選択であるのに、選択する機会もなく、死期を知らされずに不安と向き合いながら死を迎えることが多い。多くの施設では、死を迎える生き方について話題にならず、死と面と向かって向き合わず、容体が変わると病院に搬送され、死に方を



「選べない死を迎えている。」

私は、人生の最後まで自分らしく生き、自分らしく死にたいと願っている。自分がそう思うように、家族にもそうあるよう支援したいと考えているし、施設で暮らすお年寄りにも、自分の最期をどう生きるか選択できる支援をしていきたいと考えている。

人は、死期を迎える人の家族の立場であると同時に、やがて死期を迎える当事者でもある。かけがえのないたった一人しかいない自分の人生を生きていく尊厳ある個人である。その尊厳とは、死を迎えるにあたり、自分がどうあることが尊厳を持つて生を終えることになるのか、その選択ができることでもあると思う。

様々な背景があり一様には言えないが、できれば最期までどう生きたいか、自己決定できることを支えられる施設作りを目指し努力していきたいと思っている。

### アソカ園で姑を看取って

故原 富貴子様のご家族(長男の妻)

原 悦子

私はアソカ園家族会の原 悦子でございます。

私は今年の七月にアソカ園で姑を看

取りました。そのことにつきましてお話をさせていただきます。

姑は明治生まれで自立した生活をしていました。週に何度か実家の母と一緒に喜んでデイサービスに通っていましたので、姑が寝込むなどは考えられませんでした。平成十四年九十三歳の時、軽い脳出血で入院となりました。先生からは「若い人なら二週間もすれば歩いて帰れるのですが、年が年ですからね」と言われていましたが、頑張り屋の姑ですので、リハビリも手助けすれば立ち上がることが出来て、手もお箸を持って大豆をお皿に戻すことも出来るまでになって、歩けるようになったら退院できると思っていた矢先に、病院の先生から三ヶ月以内で退院しなければならぬ旨を宣告されました。自宅に帰るのか、他院に移るのかを余儀なくされました。

「家に戻りたい」と言っていた姑ですが、この状態では私たち夫婦での介護は無理と、早く歩行が出来るようにリハビリが出来た病院を探しましたが、市内ではどこも満床でありませんでした。院内のケア担当者やケアマネジャーさんが奔走してくださりやつと三島の病院に転院できる事となりましたが、その日は六月というのに雨風で肌寒く、風邪を引かなければよいがと思っていたが、部屋に着き検温すると熱が出ていたので、リハビリは熱が落ち着いてからといわれるので身体機能低下が心配で

した。

一日一食は家族の人でしてくださると言われましたので、食事時間に合わせ食事と洗濯物で毎日病院通いです。やがて食事にも変化が起きました。入れ歯が合わなくなり、流動食となりましたが、お膳を見ただけで首を振り、食欲を失くしてしまいました。点滴をしていたのですが、先生は経管栄養を言ってくださり胃ろうを選択しました。入浴も出来るし、口から食べ出せると胃は三日くらいで元に戻ると言われておりました。

九月に三ヶ月間往復六キロ毎日通った病院の紹介状を持って新居浜の元いた病院で胃ろうの手術を受けました。十日たった頃、もう退院宣告です。本当に決断の時が来ました。私も夫婦で考えましたが、やっぱり「家に帰りたい」と言う姑の希望をかなえる事が一番と、暗く寂しい病室ではなく住み慣れた明るい自分の部屋で生活して欲しいと在宅介護を決意しました。胃ろうは医療行為なので、看護師さんしか出来ないが、家族なら出来るということでしたので、退院までに十分指導を受けました。

在宅ではヘルパーさん、デイサービス、ショートステイと施設の皆さまのお世話になりながらの毎日でしたが、四年目の平成十八年三月のこと、夫が膀胱





癌を宣告されたのです。夫が末期癌と言われ、私は頭が真っ白になり、パニック状態になりました。ケアマネジャーさん始め、施設の方々の温かいお心で励まして下さったお陰で姑はショートステイでお世話になり、夫に専念する事が出来ました。

先生からは「脾臓癌は進行が速いので、今は元気でも三ヶ月、長くても半年の余命です。」と言われても、私としては半信半疑でしたが、夫に限って例外であつてほしいと願いながら二人で思い出の場所に行ったり、桜の下でお弁当を食べたりしました。もしかすると二人で見る桜は今年が最後かも知れないと思つたと、胸がつまり涙が出ましたが、夫の前では明るく会話も行動も心がけました。そんな時、幸いにもアソカ園に空気が出来、承認していただき入居する事が出来ました。

元気だった人が日々衰えていくのを見ると先生の言われた言葉が現実となつて本当に心が痛みましたが、夫の心を平穩に、そして悔いの残らないようにという思いは頭にありました。病室で寝食を共にし、いろいろな事を話しました。昔話で楽しかった事を思い出して笑いも出ました。娘も休暇を取り交替してくれて助かりましたが、二人とも身体の調子が悪くなり、受診しながらの看取りでした。



そして医師の宣告通り、三ヶ月目に旅立ちました。「親族皆さん部屋を出ていてくださーい」と言われ、次に呼ばれた時は点滴など取り除かれさっぱりした姿の夫になつていました。そして、裏口から恒例的に数人に見送られての帰宅は淋しき、悲しき、心は空しく夫にすまない気持ちになりました。

夫を送り、泣いて淋しがつてばかりはいられません。姑の事は申し訳ないと思ひながらアソカ園におまかせという形で法要の行事をこなしながら心を癒す事が出来ました。

私は姑より長く元気でいなければという思いで生活しました。それから三年、何度か入退院をくり返しもしましたが、姑は温かい介護を受けながら、平穩に過ごす事ができました。今年の二月、園で看取り勉強会があり出席させていたでいて、人生最後の生き方について真剣に考えさせられました。私は自分の事として考えた時、このアソカ園でなら希望してもいいなという思いを抱きました。

四月頃より時々酸素吸入器を必要とする回数が多くなり始めました。そして時間が長くなり始めた頃に親族に了解を得て、アソカ園の看取り確認書に署名してお願いする事が出来ました。「富貴子さん」「富貴子さん」と呼ばれながら、姑は温かく見守られながら一日、



一日を懸命に生きました。最期の二日間は空きベッドをお借りして姑を見守る事が出来ました。夜間少人数ながら手際よく働く職員さん、呼び出して駆け付けてくださった看護師さん。短時間では見えな

い陰の働きを知り、家族ではこんなには続かない事を感じ、改めて施設の存在の大きさを有り難く感じました。

三日目、今日も泊めていただけようと、いつもと変わらない姑を見て私用をすませ、お花も活け変えて元気をもらおうと買って帰ると、姑の囲りに看護師さん始め、数人の方がいて「先生を呼んでいるんです」と言われます。私はさすればまた元の数値に戻ると思い、一生懸命姑を両手でさすりましたが、戻りませんでした。

医師が来られ、やがて七月八日午後五時十三分、満年齢百歳と四ヶ月で痛みもなく静かに、それは以前お寺さんに聞いていた「人間九十才も過ぎると線香の灰の如く静かに召されます」との言葉通りでした。皆さん部屋に集まって姑の冥福を祈ってくださいました。介護長さんの「お風呂に入れてあげたい」との言葉に皆さん「入れてあげたかった。施設長さんからも「どうぞ洗ってあげてください」との言葉で手伝おうとすると少し触っただけで「私たちでさせてください」と言ってくださり、皆さん服の濡れ

るのも気にならず、丁寧に指一本一本身体をいとおしむように洗ってくださいませ様は神々しくさえ思いました。

そしてしゃぼんを流し湯舟につかる姑は至福の笑みを浮かべている様でした。上がった肌はピンク色をし、しみや床ずれもなくピカピカに輝いているのを見て姑は幸せだったと思ひました。着物を着て、薄化粧をしていただき益々きれいになりました。そして姑はお世話になつた皆さまが見送ってくださいる中を無言で霊柩車に玄関から乗せていただきました。きつと「ありがとう」「お世話になりました」と言っていることと思ひました。

運転手さんは車を玄関に着けてくださいと言われたが、自分の聞き間違えかと思つてもう一度聞き直しましたと言つて「すごい施設ですね」と感無量の面持ちでした。

私は夫と姑と二人の臨終に立ち合いましたが、施設アソカ園にお世話になつていた姑は病院でなく園で看取られて満足して旅立ったと信じています。そして家族としても介護のプロに安心して頼つて自由な時間も持ちながら、姑を看取る事ができた事、本当にありがとうございました。感謝の気持ちで一杯です。

この私の体験が皆さまに少しでも理解していただければ幸いです。







## ボランティアさんへの御礼

青木三恵様、アソカ園家族会様、木依弘子様、神野登代子様グループ、クローバー様、間部清見様、めぐみ保育園様、高津保育園様、バコダ幼稚園様、ピチカート様、退公連様、近田浩様、飯島浩様、真保路会様、柳垣絃子様、小野茂子様、田坂賀代子様、白石基道様、佐々木武雄様、佐々木讓様、山本光博様、藤扇恵美弥社中様、郷・下郷子ども太鼓台様、ハウオリーズマサコアケタフラスタジオ様、鴻上勝子様、陽の会藤間流様、草ぶえ様（ハーモニカ）

（順不同）

## 編集後記

先日の看取り勉強会には大勢の方に参加していただきありがとうございました。私たちが大切にしていきたい事は、「尊厳」。本人が望むことに対して最大限の努力をし、個人個人のケアプランを作成、ケアしていきたいと思っています。

（石井 由紀子）

園だよりあそか 2009年12月1日号

VOL13・2 年二回発行

●企画／編集 アソカ園

●レイアウト 東田印刷株式会社

〒792-0885

新居浜市清住町一、三十六

TEL (0897) 465353

FAX (0897) 465351

※園だよりに掲載の人名及び写真・文等はご本人の記事掲載の了承を得ています。